

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年11月12日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20401034

研究課題名（和文） 古代エジプト新王国時代の王墓の副葬品の研究

研究課題名（英文） Studies in the Funerary Equipment of the Royal tombs of New Kingdom
Egypt

研究代表者

河合 望（KAWAI NOZOMU）

早稲田大学・理工学術院・准教授

研究者番号：00460056

研究成果の概要（和文）：本研究は、古代エジプト新王国時代の王墓の副葬品を総合的に研究し、葬制の一端を明らかにすることを目的とした。中でも早稲田大学が1991年より調査を継続している王家の谷・西谷のアメンヘテプ3世王墓出土の副葬品の研究を中心にエジプトおよび欧米の博物館・美術館で調査研究を実施した。また自らが発掘調査を手がけたラメセス2世の孫娘イシスネフェルトの墓出土の副葬品の研究等も実施した。これらの研究により、新王国時代の王および王の埋葬にかんする理解を深めることができた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to understand the royal burial custom of Egypt's New Kingdom by examining the funerary equipment of the royal tombs. Special attention was paid to the funerary equipment from the tomb of Amenhotep III in the Western Valley of the Kings, which was excavated by Waseda University Expedition since 1991. The funerary equipment that was found before Waseda mission worked are stored in the Museums in Europe and USA. They were also studied during the research term. Research was also conducted on the funerary equipment from the tomb of Isisnofret, a granddaughter of Ramesses II, which was excavated by Waseda University Expedition under the direction of myself in the field. The result of this study will contribute for further understanding on the funerary custom of the royal tombs in Egypt's New Kingdom.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総計	4,200,000	1,260,000	5,460,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、考古学

キーワード：西洋史・考古学・王墓・古代エジプト・副葬品・王家・新王国時代

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1989年より早稲田大学古代エジプト調査隊による新王国時代第18王朝の王、アメンヘテプ3世（紀元前1390年頃～1352年頃）の王墓の発掘調査と保存修復作業

に参加しており、特に出土した副葬品の研究を担当してきた。ただし、アメンヘテプ3世王墓は1799年にナポレオンのエジプト遠征隊によって公式に発見され、欧米の研究者が記録や発掘調査を行ってきたので、早稲田大

学古代エジプト調査隊が調査を行う前に発掘された出土遺物はエジプトおよび欧米の博物館・美術館に分散されてしまっており、同王墓出土副葬品の包括的な研究を行うにはそれらの博物館・美術館で資料調査を実施することが不可欠であると考え、本研究の申請に至った。

2. 研究の目的

古代エジプト新王国時代（紀元前 1550 年頃～1069 年頃）の歴代の王は、豪華な副葬品とともに政治と宗教の中心地であるテーベ（現在のルクソール市）の西岸に位置する通称「王家の谷」に埋葬されたとされている。奇跡的にほぼ未盗掘の状態で見つかったツタンカーメン王墓を除けば、ほとんどの王墓が盗掘を受けていたため、新王国時代の王の埋葬当時の様相はあまり明らかではない。しかし、18 世紀から発掘された王墓の中には僅かながらに遺物が残存しており、各王墓の出土遺物を比較することによって、当時の王墓の副葬品の組み合わせを理解することが可能であると考え。本研究は、申請者が参加した新王国時代第 18 王朝のアメンヘテプ 3 世王墓の発掘調査の出土遺物と世界各地の博物館・美術館に散在する新王国時代の王の副葬品を総合的に研究し、古代エジプト新王国時代における王の葬制の一端を明らかにすることを試みるものである。

3. 研究の方法

本研究は、フィールドワークとしてエジプト現地での遺物整理・研究と欧米の博物館・美術館における収蔵品の研究を大きな 2 本の柱とする。

(1) エジプトでの調査研究

① 早稲田大学古代エジプト調査隊が発掘権を持つエジプト、ルクソール西岸、王家の谷・西谷のアメンヘテプ 3 世王墓とこれまでの調査で出土した遺物が保管されている遺物倉庫で作業をおこなう。

② 新王国時代の王墓の副葬品が収蔵されているエジプト現地の博物館であるカイロのエジプト博物館にて新王国時代の王墓出土遺物の実測、記録、撮影を行なう。

(2) 欧米の博物館・美術館および大学施設での調査研究

① 欧米の博物館・美術館が膨大な古代エジプトのコレクションを有するのは周知の事実である。アメンヘテプ 3 世王墓出土の副葬品は、米国（メトロポリタン美術館、ボストン美術館、シカゴ大学オリエント研究所附属博物館、シカゴ美術研究所など）、英国（大英博物館、ロンドン大学ピートリー博物館、ハ

イクレア城など）、フランス（ルーヴル美術館、ストラスブール大学博物館）、ドイツ（ベルリン・エジプト博物館、ミュンヘン・エジプト博物館）、ベルギー（王立美術館）、ロシア（プーシキン美術館）などのコレクションに収蔵されている。これらの博物館・美術館を訪れ、新王国時代の王墓の副葬品の調査研究を実施する。

② 19 世紀や 20 世紀に新王国時代の王墓を調査した考古学者の日誌や図面が残されているオックスフォード大学のグリフィス研究所といった研究機関を訪れ、アーカイブを調査する。

4. 研究成果

(1) 2008 年度の研究成果

① 2008 年 9 月にニューヨークのメトロポリタン美術館およびブルックリン美術館、ボストンのボストン美術館にて新王国時代の王墓出土の副葬品の調査を行った。メトロポリタン美術館では、早稲田大学古代エジプト調査隊がアメンヘテプ 3 世王墓を調査する以前に米国籍が 20 世紀初頭に発掘した遺物を研究する許可を得、全ての関連遺物の記録、研究を実施した。ブルックリン美術館では、考古学的発掘調査由来のものではないが、新王国時代の王墓由来と思われる遺物の調査をおこなった。ボストン美術館においても米国籍による調査で出土した遺物の調査を行った。特に、メトロポリタン美術館の調査では、未発表のアメンヘテプ 3 世王墓出土の膨大なファイアンス製品を記録することができ、当時の最高技術のファイアンス製作技法に関する知見を得ることができた。

② 2009 年 1 月から 2 月にかけて早稲田大学エジプト学研究所による第 18 次アブ・シール丘陵遺跡調査に参加し、新王国時代第 19 王朝ラメセス 2 世の孫娘イシスネフェルトの墓を発見し、副葬品の調査を行った。また、2009 年 3 月には、ルクソール、王家の谷・アメンヘテプ 3 世王墓および遺物倉庫にて出土遺物の調査を実施した。今年度は、主に木製品、ファイアンス製品を中心に作業を行った。

(2) 2009 年度の研究成果

① 2009 年度は、2009 年 9 月に英国の大英博物館、ロンドン大学エジプト考古学博物館、ハイクレア城エジプトコレクション、イートン校エジプトコレクションにて撮影、実測、観察を行い、貴重な資料を得ることができた。

② エジプト現地では、2010 年 2 月にアメンヘテプ 3 世王墓およびルクソール西岸の考古庁査察局が管理する早稲田大学古代エジプト調査隊の遺物収蔵倉庫で撮影、実測、観察を

行った。

資料調査の他にはエジプト政府文化省考古最高評議会から2009年11月に実施された国際シンポジウム“Valley of the Kings since Howard Carter”への招聘を受け、科学研究費補助金による本研究の成果を“Some Remarks on the Funerary Equipment from the Tomb of Amenhotep III (KV22)”として発表した。発表の内容はエジプト政府考古省(現)より出版される論文集に掲載される予定である。

また、2009年8月にアブ・シール南丘陵遺跡では王族であるラメセス2世の孫娘イシスネフェルトの墓出土の副葬品の研究を行い、国内外の学術雑誌等に論文・報告を発表した。

(3)2010年度の研究成果

①2010年度は、2011年1月末の革命のために2月に予定していたエジプトでのアメンヘテプ3世王墓出土遺物の資料調査が延期となった。アブ・シール南丘陵遺跡のイシスネフェルト墓については、2010年8月に副葬品の資料調査を継続した。その他では国内にてこれまでに得た資料の整理や文献研究などを行った。

②チェコ共和国カレル大学エジプト学研究所で開催された国際会議“Abusir and Saqqara in the Year 2010”においてアブ・シール南丘陵遺跡で発見されたラメセス2世の孫娘イシスネフェルトの墓とその副葬品に関して“The Tomb of Isisnofret at Northwest Saqqara”と題して発表した。

(4)2011年度の研究成果

2011年1月末のエジプト革命の影響を受け、調査研究の遂行が困難となったことを受け、研究費を2011年度に繰り越した。

①2011年12月から2012年1月にかけて、ルクソール、王家の谷・アメンヘテプ3世王墓および遺物倉庫にて出土遺物の調査を実施した。これまでの資料調査で記録した遺物の接合や総合的な検証を行い、今回の調査で出土遺物の資料化が完了した。

②2012年3月にフランスのルーヴル美術館エジプト美術部に所蔵されている未公開のものを含むアメンヘテプ3世王墓の副葬品を中心とした新王国時代の王墓の副葬品の資料調査を実施した。続けて、ベルギーのブリュッセル王立博物館のエジプトコレクションの資料調査を実施した。

本研究では、当初の目的どおりエジプトおよび欧米の博物館・美術館に収蔵されている新王国時代第18王朝のアメンヘテプ3世王

墓の副葬品の大部を網羅することが可能となった。これにより可能な限り副葬品の種類や工芸技術の様相が明らかとなり新王国時代の王の埋葬に関する研究に大きく貢献する基盤研究を築くことができた。

研究の成果の一部は一般書として『ツタンカーメン 少年王の謎』の一部で反映させ、研究の社会還元もおこなった。

今後も、入手、分析した包括的な資料を活かし、国内のみならず海外の研究者に向けて発信を続けていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① Nozomu Kawai, Some Remarks on the Funerary Equipment from the tomb of Amenhotep III (KV 22), *Supplement aux Annales du Service des Antiquités de l'Égypte*, 査読有, The Ministry of the State for Antiquities Affairs, Egypt, Cairo, 印刷中
- ② Nozomu Kawai, The Tomb of Isisnofret at Northwest Saqqara, *Abusir and Saqqara in the Year 2010*, 査読有, 2011, pp. 497-511.
- ③ Sakuji Yoshimura and Nozomu Kawai, Report of the Waseda University Excavations at North Saqqara 2009-1, *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* Vol. 84, 査読有, 2011, pp. 467-483.
- ④ Sakuji Yoshimura and Nozomu Kawai, “Le Monument du Prince Khaemouaset,” *Dossiers d'Archéologie* (Paris : Faton), vol. 20, 査読無, 2011, pp. 14-15.
- ⑤ 河合 望, エジプト, アブ・シール南丘陵遺跡で発見されたイシスネフェルトのトゥーム・チャペルについて—遺構の性格と被葬者をめぐって—, *オリエント*, 査読有, 第53巻第1号, 2011年, pp. 1-30.
- ⑥ Nozomu Kawai, Ay versus Horemheb: The Political Situation in the Late Eighteenth Dynasty Revisited, *Journal of Egyptian History* (Leiden: Brill), 査読有, vol. 3, no. 2, 2010, pp. 261-292.
- ⑦ 河合 望, アイとホルエムヘブ—ポストアマルナ時代史の一局面—, *オリエント*, 査読有, 第51巻第2号, 2010, pp. 27-56.
- ⑧ Nozomu Kawai, Sakuji Yoshimura, The Tomb chapel of Isisnofret at Saqqara, *Egyptian Archaeology*, 査読無, vol. 36, 2010, The Egypt Exploration Society,

London, pp. 11-14.

- ⑨ Nozomu Kawai, Sakuji Yoshimura, Neue Entdeckungen im Nordwesten Sakkaras : Eine Grabkapelle aus dem Neuen Reich und das Grab der Isisnofret, *Sokar* 19. 査読無、2010 62-70 (2009)

[学会発表] (計7件)

- ① Nozomu Kawai, The Newly Discovered Tomb-chapel of Isisnofret at Northwest Saqqara, 63rd Annual Meeting of the American Research Center in Egypt, 2012年4月28日、アメリカ合衆国プロビデンス市
- ② 河合 望、王家の谷西谷、アメンヘテプ3世王墓出土の副葬品について、日本オリエント学会第53回大会、2011年11月20日、岡山、ノートルダム清心女子大学
- ③ 河合 望、アクエンアテン王の後継者をめぐって、日本オリエント学会第52回大会、2010年11月7日、国士舘大学
- ④ Nozomu Kawai, The Tomb of Isisnofret at Northwest Saqqara, *Abusir and Saqqara in the Year 2010*, 2010年5月31日、チェコ共和国プラハ市、カレル大学
- ⑤ Nozomu Kawai, Some Remarks on the Funerary Equipment from the tomb of Amenhotep III (KV 22), " *Valley of the Kings since Howard Carter* (Luxor, Egypt) 、2009年11月4日、エジプト、ルクソール市、ミイラ博物館
- ⑥ 河合 望、エジプト、アブ・シール南丘陵頂部で発見された新王国時代のトゥーム・チャペルとイシスネフェルトの墓について、日本オリエント学会第51回大会、2009年10月、京都、同志社大学
- ⑦ Nozomu Kawai, Ay versus Horemheb : A Reappraisal of the Political Situation in the Late Eighteenth Dynasty" The 10th International Congress of Egyptologists, 2008年5月28日、ギリシャ、エーゲ大学

[図書] (計2件)

- ① 河合 望、集英社、ツタンカーメン 少年王の謎、2012、254
- ② 吉村作治、菊地敬夫、河合 望、西坂朗子、瀬戸邦弘、中央公論美術出版、エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書 [1] -アメンヘテプ3世王墓(KV22)を中心として-、2008、278

[その他]

ホームページ等

<http://researchmap.jp/1336tutankhamun/>
<http://waseda.academia.edu/NozomuKawai>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合 望 (KAWAI NOZOMU)

早稲田大学・理工学術院・准教授

研究者番号：00460056